

II 部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長 平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。～磐井病院緩和医療科～」

歴史的には、『寿命が迫ってきた時』の、特に『疼痛緩和』として“緩和ケア”が発展してきました。しかし、現在は、『診断された時からの全人的苦痛緩和』が、緩和ケアの基本とされるようになりました。

『磐井病院 緩和医療科』では、終末期はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いができれば、と考えています。“(基本的)緩和ケア”は、主治医の先生方によって行われておりますが、症状緩和に難渋する症例や、精神的な不安が強い患者さんについては、『緩和医療科』でもお手伝いをさせていただき、抗がん治療がより落ち着いて施行できれば、と考えております。また、大きな症状がない時期から受診していただくことにより、“緩和ケア＝末期、という誤解“＝『緩和ケアへの障壁』を取り除くことができると考えております。

人生の最終段階における苦痛緩和は、そう容易ではないかもしれませんが。その時期をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのでしょうか。『その人らしく』、を大切に、悩み、葛藤さえも、『その人らしさ』と考え、その苦しみに静かに寄り添いながら、少しでも光が見えてくれれば、と思っています。

緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関・介護施設などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えたいと思います。地域と連携しながら、状況に応じて当科からの訪問診療も行っております。

(なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん(悪性腫瘍)」(と AIDS。磐井病院では実績はありません)の患者さんに限定されています。)

<診療実績> (2022 年度(令和 4 年度))

●緩和医療科外来

令和 4 年度の外来受診患者数は、のべ 925 名受診 (1 日平均 3.8 名/平日 243 日)

※新患患者数 26 名 (うち、他院からの紹介 19 名)

●緩和ケア病棟

令和 4 年度入院数 入院患者数 239 名、退院患者数 221 名、うち死亡退院患者数 153 名、1 日平均入院患者数 14.5 名

●緩和ケアチーム

令和 4 年度の依頼患者数 147 名

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合

主治医の先生が紹介を希望された場合や、患者さんが受診を希望された場合 →「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医(平野拓司)宛にお気軽にご相談ください。

医療関係者の皆様へ

緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」、日本ホスピス緩和ケア協会の認証制度の「認証」を受けています。

呼吸器内科

呼吸器科長 駒木 裕一

令和4年度も常勤医1名で外来、入院診療を行っております。

主として気道疾患(気管支喘息、COPD)、感染症(肺炎、胸膜炎、抗酸菌症など)、腫瘍(肺癌、胸膜中皮腫、胸腺癌など)の診療にあたっています。両磐地区で肺悪性腫瘍の診断、治療を行える施設が当院を含め限られており、症例が集中しています。

<診療実績>

・外来患者延数	5,338名
・入院患者延数	6,953名
・気管支鏡	133件
・胸腔ドレナージ	52件
・胸腔穿刺	46件
・化学療法	入院 58件、外来 255件

消化器内科

第1 消化器内科長 横沢 聡

両磐医療圏域における急性期病院である当院において、当科は主に消化器領域急性期医療を担っており、腹部症状等で当院を救急受診された患者さん、各種がん検診で要精査となった患者さんに対する内視鏡検査等の二次精査目的に受診された患者さん、そして他施設や院内他科から精査加療目的に紹介となった患者さん等を中心に、消化器領域疾患の診断および内科的治療を積極的に行っております。

また当院は「がん診療連携拠点病院」を標榜しておりますが、その中で当科は消化器癌診療の礎である診断を行い、更に内視鏡治療を中心とした低侵襲治療や化学療法などの治療も積極的に行っており、早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や胆管癌や膵癌に対する内視鏡的逆行性胆管造影法（ERCP）による術前精査や閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆管ドレナージ、更に消化器癌に対する化学療法など、外科とともに当院の消化器癌診療における中心的役割を担っております。

さらに当科の特色として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診療にも積極的に取り組んでおり、大腸内視鏡検査や小腸カプセル内視鏡検査、小腸造影検査などの各種検査による炎症性腸疾患の精査・診断を行っております。治療においては、5-アミノサリチル酸製剤やステロイド製剤などの基本治療薬から抗TNF- α 抗体製剤などの分子標的薬に至るまで、患者様の病態に応じて種々の治療薬を使い分けて治療を行っております。

また、胆膵領域ではERCP関連手技による精査、治療に加えて超音波内視鏡観測装置及びコンベックス型超音波内視鏡、更に最新型の胆道鏡であるSpyScope™ DS IIを整備しており、膵腫瘍あるいは消化管粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診（EUS-FNA）、胆道癌手術例における胆道鏡下生検を用いた病変範囲診断や総胆管結石に対する電気水圧衝撃波胆管結石破碎術（EHL）などを行っております。

当院は日本内科学会認定研修施設、日本消化器病学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定研修医施設、日本消化管学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設であり、各種学会の研修プログラムに則りながら専攻医研修を行っており、後進の育成も積極的に行っております。

<診療実績>（令和4年1月～12月）

入院患者延数 9,892人

外来患者延数 14,552人

おもな検査、治療件数

上部消化管内視鏡検査 2,169件

下部消化管内視鏡検査 1,372件

超音波内視鏡検査 138件

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA） 27件

消化管ステント留置術 44 件
内視鏡的逆行性胆管造影法 (ERCP) 159 件
内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 30 件
内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) (食道) 8 件
ESD (胃) 61 件
ESD (大腸) 59 件
大腸ポリペクトミー 307 件
肝動脈化学塞栓術 (TACE) 28 件
腹水濾過濃縮再静注法 (CART) 49 件
外来化学療法 735 件
入院化学療法 49 件

循環器内科

第1循環器内科長 小野寺 洋幸

<循環器救急診療>

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療の必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては24時間対応できるよう努力しております。

<高度診療>

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

<動脈硬化性疾患の予防>

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

<病診連携>

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただきよう、連携を進めていきたいと考えております。

<対象となる疾患>

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症 など

<施設認定>

日本内科学会認定教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

<診療実績>（令和4年度）

冠動脈造影	81件	頸動脈エコー	6件
経皮的冠動脈インターベンション	87件	腎動脈エコー	10件
経皮的腎動脈形成術	0件	ホルター心電図	571件
恒久的ペースメーカー移植・交換術	37件	トレッドミル負荷心電図	177件
大動脈バルーン・パンピング	28件	心臓核医学検査	17件
下大静脈フィルター留置術	0件	冠動脈MDCT	51件
心嚢ドレナージ	4件	睡眠時ポリグラフィー検査	13件
心エコー	1,551件		

小児科

第1小児科長 丸山 秀和

<特徴>

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、令和4年8月より一般外来は完全予約制に移行となりました。完全予約制への移行により患者に対して集中的に診療を行えるよう対応しております。今後も完全予約制の対応にて、患者一人一人に対してより集中的な診療を行っていくよう努めてまいります。紹介患者は対応いたしておりますので御相談下さい。

月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は6～7ヶ月・1歳児健診、午後は1ヶ月健診）を行っており、その他午後は慢性疾患外来の診療を中心に行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していけるように心がけていきたいと存じます。

<診療実績>（令和4年度）

入院患者延数	2,671件	外来患者延数	7,094件
当年度入院	518件	新患数	1,224件

新生児科

新生児科長 天沼 史孝

<特徴>

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米、気仙沼)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年 4 月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

より良い医療、安心、安全を提供するため週 1 回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

<対象となる疾患>

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

<施設認定>

日本小児科学会専門医研修関連施設

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

<蘇生法講習会>

毎年、1 回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)を開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ初回の講習会を開催した。県内研修医や救命救急士、消防士の方にも参加して頂いています。

<診療実績> (令和4年度)

入院 1,509人

超低出生体重児	2人	極低出生体重児	1人	低出生体重児	83人
新生児黄疸	35人	感染症	81人	低血糖症	9人
先天性心疾患	0人	染色体異常	0人	その他	1,298人

外来 806人 (新患 37人)

シナジス接種適応患児	85人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	5,634人

<スタッフ紹介>

医師名	専門分野	主な資格
天沼 史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医 認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会 新生児蘇生法 NCPR インストラクター
		日本DMAT隊員 災害時小児周産期リエゾン
		ICD制度協議会 ICD(感染コントロールドクター)
		厚生労働省 臨床研修指導医

外科

第1外科長 桂 一憲

当科は、「がん連携拠点病院」を標榜している磐井病院にあつて、消化器系、乳腺甲状腺の悪性疾患の診療を行っております。最新の癌治療ガイドラインに則った手術治療、化学療法（免疫療法を含む）、放射線治療など、「がん」の集学的治療を担っております。消化器疾患については、消化器内科と協力し、最適な医療の提供に努めております。

内視鏡外科手術などの低侵襲手術にも積極的に対応しております。

鼠径ヘルニアや胆嚢結石症などの良性疾患、急性虫垂炎や胆のう炎、腸閉塞などの緊急手術が必要な疾患についても、麻酔科と協力し、救急対応を行っております。

- ① 胃癌、大腸癌、食道癌、肝腫瘍、肺腫瘍、ヘルニアなどの鏡視下低侵襲手術が可能なスタッフが揃い、より高度低侵襲な手術の提供を目指しております。
- ② 乳癌は、月3回、東北大学総合外科乳腺内分泌外科、石田孝宣教授他2名の診察が行われ、最新の知見による乳癌治療を行っております。
- ③ 東北大学腫瘍内科、石岡千加史教授、東北医科薬科大腫瘍内科、下平秀樹教授が月各1回の腫瘍内科外来診察があり、最新の知見に基づいた化学療法を指示いただいております。また、難治性の腫瘍については、東北大学などの高次医療機関の治験にも参加しております。
- ④ 化学療法に経験のある医師を揃え、最新の免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬についても多数の患者への使用経験があります。
- ⑤ 胆沢病院血管外科チームと協力し、急性の血管病変にも対応しております。

< 診療実績 > : 2022年手術件数 (2022年1月-2022年12月) ()は内視鏡手術

総手術件数		668 件	緊急手術		166 件
成人ヘルニア【15歳以上】		85 (23) 件	結腸癌		72 (54) 件
小児ヘルニア		8 件	直腸癌		33 (20) 件
内分泌	甲状腺悪性腫瘍	5 件	肝臓悪性腫瘍		8 (1) 件
	甲状腺良性腫瘍	9 件	膵臓	膵頭十二指腸切除	8 件
乳腺	乳癌 (温存)	7 件		その他の膵切除	
	乳癌 (全摘)	29 件	胆道	胆嚢摘出	61 (60) 件
呼吸器	肺悪性腫瘍	2 (2) 件	悪性腫瘍		0 件
食道癌		2 (2) 件	虫垂切除		41 (40) 件
胃腫瘍(癌)	全摘	13 (1) 件	腸閉塞		41 (12) 件
	部分切除	24 (13) 件	汎発性腹膜炎		5 件
	GIST・その他	6 件	外傷による開腹手術		0 件

i) 十分な、インフォームド・コンセントのもと、進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡手術適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を継続いたします。

ii) 高齢患者の手術にも低侵襲な治療を選択し、かつ、地域の医療機関、介護施設との連携を密にし、患者の意に沿う治療法、治療場所を提供いたします。

iii) PFM (患者フローマネージメント) を多職種で進め、術前術後患者の早期回復を目指します。

整形外科

第1 整形外科長 中村 聡

<特徴>

整形外科では、いわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は6名で、うち5名が日本整形外科学会認定の専門医資格を持っています。外来は月・火・水・木の午前に行っています。完全予約制ですが、予約されていても急患対応や緊急手術などでお待たせすることがあります。金曜日を主な手術日としていますが、平日は毎日手術を行っているのが現状です。

交通事故、労災事故、転倒による外傷など、手術が必要になりそうな患者さんは基本的に全て受け入れており、良好な機能回復を目指して手術を行っています。手術は年間約600件行っていますが、両磐地区ほぼすべての整形外科手術と、胆江地区の脊椎手術も行うため、手術件数が年々急速に増え続けており、昨年度は過去最高の726件の手術を行いました。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨転子部/頸部骨折です。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努めています。また、この骨折ではリハビリを含めて一般的に2ヶ月前後の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

2020年度からは脊椎外科医が着任し、脊椎疾患（頸部脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア等）の手術治療も行っています。2椎間までの頸椎、腰椎疾患に対しては脊椎内視鏡による低侵襲手術を行っています。

股関節手術（人工股関節置換、人工骨頭挿入）は術後脱臼のリスクが少ない仰臥位前方アプローチで行っています。

2020年12月に、腰椎、大腿骨DEXAによる骨密度測定装置を新規導入しました。骨粗鬆症の診断、治療、骨折後の2次骨折予防のための治療強化などにも力を入れて取り組んでいます。

入院病床に限られるため、日常生活が不自由な状態での通院治療や、早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察の上、ご理解とご協力をお願い致します。

<手術実績 726件（令和4年度）>

骨折観血的手術	242件
人工骨頭置換術	43件
人工関節置換術	73件（うち股関節46件 膝関節27件）
脊椎手術	123件（うち脊椎内視鏡手術58件）
その他	245件

脳神経外科

脳神経外科長 藤原 和則

<特徴>

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

<対象となる疾患>

脳卒中のうちくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷などの頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫が入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査を行い、神経膠腫などの大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。

また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：1ヶ月に1回）。

<設備>

診断機器：MRI、CT、DSA、ガンマカメラ、脳波計

手術機器；手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、定位脳手術装置

<手術件数>（令和4年度）

脳腫瘍摘出術	0件
脳動脈瘤クリッピング術	12件
脳内血腫摘出（吸引）術	0件
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	42件
水頭症手術	2件
外傷性頭蓋内出血（開頭）	4件
脳神経血管減圧術	1件

<施設認定>

日本専門医機構研修プログラムによる研修施設（関連施設）

<スタッフ紹介>

医師名	役職	資格等
藤原 和則	脳神経外科医長	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
高橋 昇	リハビリテーション科長	脳神経外科専門医
鮫名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

形成外科長 本庄 省五

<特徴>

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健常に、より美しくすることによってみなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県立病院では2番目に設置され、日本形成外科学会の研修認定施設に認定されています。

<対象となる疾患>

口唇裂口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、瘢痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

<診療内容>年間手術数は201例

★口唇裂・口蓋裂症は、周辺医療機関の認知度の上昇とともに患者数も増加傾向にあります。大学病院での約20年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後3ヶ月前後で口唇形成術、1.5歳前後に口蓋形成術、10歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近のご高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では目立つ傷跡が出来るだけ残らないように治療しています。骨折でも皮膚切開線ができるだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、1歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚・皮下組織腫瘍は良性 95 例、悪性 22 例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。

★褥瘡・難治性潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治療理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

<施設認定>

日本形成外科学会 教育関連施設（専門医取得可能）

皮膚科

皮膚科医長 加藤 毬乃

<診療科の特徴>

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のとっぺんから、足のつま先までの皮膚病変を扱います。

<対象となる皮膚疾患>

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、帯状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、蕁麻疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。

<診療実績>（令和4年度）

有棘細胞癌	69 件
悪性黒色腫	38 件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget 病など）	114 件
1 日平均外来患者数	25.6 人
1 日平均入院患者数	0.29 人

泌尿器科

泌尿器科長 藤島 洋介

<特徴>

当科では、腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器に生じた癌や、尿路結石症、前立腺肥大症、陰嚢疾患、尿路感染症、小児泌尿器科疾患、末期腎不全に対する血液透析を行っています。開腹手術や腹腔鏡下手術、経尿道的手術に対応しており、特に前立腺肥大症に対するホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP)・経尿道的水蒸気治療 (WAVE)・経尿道的前立腺尿道吊り上げ術 (PUL)、尿路結石に対するレーザー治療に力を注いでいます。PULについては東北6県で最も早く技術認定を取得した経験豊富な術者が在籍しており、岩手県内では唯一、極低侵襲治療 (MIST: Minimally invasive surgical therapy) に対応した診療体制を取っています。2018年より MOSES system™ を実装したホルミウムレーザーLumenis パルス 120H により、高効率な結石治療や Moses HoLEP など先進的な治療を行っています。また、当院は前立腺癌に対する強度変調放射線療法 (IMRT) 前に治療精度向上や放射線性合併症の予防のため、前立腺金マーカー留置術や放射線治療用吸収性組織スパーサー留置術を当科にて行っており、近隣の医療機関からご希望の患者様の受け入れも積極的に行っています。

<対象となる疾患>

前立腺肥大症、尿路結石症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、尿路感染症、停留精巣、腎不全、シャント機能不全など。

<診療内容>

1 前立腺肥大症

高齢男性の排尿困難の多くは前立腺肥大症によるものです。前立腺超音波検査、排尿機能検査、前立腺癌のスクリーニング検査、内視鏡検査などで病状を正確に把握した後に、症状に応じて内服治療や手術療法をご提案させていただきます。前立腺体積や病状に応じてホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP)・経尿道的水蒸気治療 (WAVE)・経尿道的前立腺尿道吊り上げ術 (PUL) を選択できます。

HoLEP は従来の前立腺切除術と比較して出血が少なく体への負担が少ない上に治療効果が高く再発率が低く国内で徐々に普及しつつあります。当院は県内で唯一常時施行しており、MOSES system による高効率手術 (MoLEP) により従来まで開腹手術が行われてきた前立腺体積の大きい方でも安全に手術可能となっています。2023 年からは、Rezum システムによる経尿道的水蒸気治療: Water Vapor Energy Therapy (WAVE Therapy) は前立腺中葉肥大を伴う 80cm³ 以下の体積の方で、全身麻酔リスクのある方などの極低侵襲治療として適応しています。Urolift システムによる経尿道的前立腺吊り上げ術: Prostatic Urethral lift (PUL) は、前立腺中葉肥大を伴わない比較的体積の小さめの方で、全身麻酔リスクのある方などの極低侵襲治療として適応しています。

2 腎癌／腎盂尿管癌

岩手県立病院では数少ない日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医が在籍し、主に腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡手術は体への負担が少なく術後の回復も早く、中程度までの病期の方に対する標準的な術式として普及しています。当院では2020年から3D内視鏡を使用した腹腔鏡手術を開始し、精度の高い安全な手術を行っています。

3 尿路上皮癌（膀胱癌、腎盂癌、尿管癌）

膀胱癌は癌進行の程度によって治療方針が大きく変わります。早期癌は簡便な内視鏡手術のみで治すことができますが、癌が進行して大きくなってくると抗癌剤、放射線治療、開腹手術、苦痛緩和療法などのさまざまな方法を組み合わせる必要があります。磐井病院泌尿器科では、「最小の負担で最大の治療効果」をあげられるよう、さまざまな手術・治療法を駆使して治療に臨んでいます。膀胱癌に対する、第3世代光線力学診断用剤5-アミノレブリン酸(5-aminolevulinic acid: 5-ALA)を用いた光線力学診断(photodynamic diagnosis: PDD)が、2017年に保険適用になり、当院でも2020年から標準的にPDDを用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を行い、精度の高い手術治療を行っています。

抗癌剤治療についても、保険適応となっている新規薬剤やレジメンを積極的に採用しています。大学病院などの高次医療機関と連携し、必要時応じて患者さんの地元での治療継続も可能としております。

4 前立腺癌

当科では早期診断と早期癌に対する低侵襲な放射線治療に力を入れています。精度の高い早期診断のために、当院ではプロステートヘルスインデックス(phi)による評価を採用しており、前立腺針生検が必要な方を絞り込んで行っています。強度変調放射線療法(IMRT)の適応となった場合には、治療精度向上や放射線性合併症の予防のため、前立腺金マーカー留置術と放射線治療用吸収性組織スペーサー留置術を行っています。ロボット支援腹腔鏡下手術や粒子線治療が適応となる患者さんについては、必要に応じて近隣または県内外の各病院などをご紹介します。そのほか新規ホルモン治療薬や抗癌剤治療にも対応しており、大学病院などの高次医療機関と連携し、必要時応じて患者さんの地元での治療継続も可能としております。当院では病状に応じて、前立腺癌の遺伝子検査であるBRCA1遺伝子・BRCA2遺伝子検査(BRACAnalysis診断システム)を行っており、変異があった場合の治療まで行っています。院内で開設している遺伝カウンセリング外来にて、ご家族のご相談にも対応しています。

5 尿路結石症（腎結石、尿管結石、膀胱結石）

2018年よりMOSES system™を実装したホルミウムレーザーLumenis パルス 120Hを用いた内視鏡手術を導入し、TULやPNLなどの標準的な内視鏡手術に加え、高難度のECIRS/TAP手術も行っています。

6 腎不全

2020年から末期腎不全患者さんの血液透析導入・管理、経皮的内シャント拡張術を行っています。血液浄化療法として免疫吸着療法、血漿交換療法にも対応しています。

<施設認定>

日本泌尿器科学会専門医教育施設

<診療実績> (令和4年度)

2022年1月～12月 実績

膀胱癌	尿路内視鏡手術	33
	開腹手術	1
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	4
	開腹手術	0
前立腺癌	腹腔鏡手術	0
	開腹手術	0
	金マーカ―留置術	32
	スぺ―サー留置術	40
	前立腺生検	81
精巣腫瘍	精巣摘出	1
副腎腫瘍	腹腔鏡手術	1
前立腺肥大	TURP	1
	HoLEP	18
	開腹手術	0

尿管結石	尿路内視鏡手術	35
膀胱結石	尿路内視鏡手術	10
	開腹手術	0
腎結石	尿路内視鏡手術	9
	ECIRS/TAP	1
急性陰囊症	精巣固定術	2
包茎	包茎手術	2
陰囊水腫	水腫根治術	2
尿膜管	腹腔鏡手術	0
腎不全	内シャント設置術	13
その他	尿路内視鏡手術	132
	他腹腔鏡手術	1
	膀胱鏡検査	581
	その他手術	26

産婦人科

第1産婦人科長 加賀 敬子

<特徴>

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、膣）、および関連した内分泌器官（視床下部、下垂体）を扱う診療科です。

現在、常勤医は産婦人科専門医5名、産婦人科専攻医1名の6名体制となっています。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州地方から宮城県北等にわたる総人口約30万人の医療圏を有しております。

産科分野においては、平成23年4月からは岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始し、新生児科の協力のもとに早産を含めたハイリスク分娩に対応しています。また、妊娠・分娩・産褥期間の安心、安全を提供するために週1回の産婦人科、新生児科、および病棟スタッフとのカンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。令和元年8月には、これまでスタッフが一丸となって取り組んできた母乳育児推進活動が評価され、WHO(世界保健機構)とユニセフによる「BFH: baby friendly hospital (赤ちゃんにやさしい病院)」に認定されております。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です。良性腫瘍の治療においては、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医を軸として全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)、子宮筋腫核出術、子宮付属器腫瘍摘出術等を多数行っており、最近では近年増加している骨盤臓器脱に対する仙骨膣固定術(LSC)も開始しております。悪性腫瘍に対しては、地域より多数の紹介があり、がん治療専門医/日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医が在籍し、岩手医科大学、東北大学、宮城県立がんセンター等の高次医療機関、及び院内の放射線診断科・治療科、外科、内科、泌尿器科、緩和医療科等の各科と連携し、治療にあたっております。

<対象となる疾患>

産科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般及びおおむね妊娠33週以降の分娩。

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療。

<施設認定>

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会専門医制度母体・胎児認定補完施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

<診療実績> (2022年4月～2023年3月)

手術件数：総手術件数472件（開腹手術40件、腹腔鏡下手術140件、経膣手術等74件）

分娩：586名出生（うち帝王切開分娩202例、双胎7例）

放射線治療科

放射線治療科長 阿部 恵子

<特 徴>

放射線治療科は、2015年7月より常勤（1名）体制となり8年目を迎えようとしています。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただいております。直線加速器（リニアック）によるX線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム注射液も投与可能です。

対象となる疾患は9割以上が悪性腫瘍であり、治癒を目的とした根治照射、癌による疼痛や出血などの苦痛症状軽減のための緩和照射、乳癌の術後照射などをおこなっています。良性疾患も照射適応となることがあり、甲状腺眼症、ケロイドの術後照射などがその対象です。

令和4年3月にはリニアックの更新も無事完了し、これまで以上に高精度な治療を地域の患者さんに提供することが可能となりました。放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

阿部 恵子 放射線治療科長 平成17年度東北大学卒

2 専門分野

X線、電子線による体外照射

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<診療実績>放射線治療患者数(2022年4月～2023年3月)

乳癌	44件
前立腺癌	50件
肺癌	9件
食道癌	7件
膵癌	2件
骨転移	28件
脳転移	8件
その他	85件
計	233件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長 照山 和秀

<特 徴>

画像診断科では、C T・MR I・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を1名の診断専門医（常勤）が担当しています。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

照山 和秀 画像診断科長兼放射線科長 平成6年度東北大卒

2 専門分野

- (1) カテーテルを用いた血管内治療。（外傷や消化管出血、不正出血などに対する動脈塞栓術、透析シャント狭窄に対する血管拡張術など）
- (2) 画像ガイド下での生検やドレナージ。
- (3) C T・MR I・核医学などの画像診断。

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<2022年1月1日～2022年12月31日までの読影件数>

C T	3783 件
MR I	1179 件
シンチ	212 件
アンギオ	20 件
一般撮影	1 件
計	5209 件

眼 科

眼科長 今泉 利康

眼科

<特徴>

眼科は視覚を担う感覚器を扱う専門領域です。眼瞼・眼窩・眼球・外眼筋・視神経と分野も多岐にわたります。健康で自立した生活を送るためには視覚情報は不可欠なものであり、高齢化が進行する現代社会においては、その役割はますます重要になっております。今後も地域の皆様の視力の向上に貢献できるように、視能訓練士、看護師とともに励んで参ります。

<対象疾患>

白内障 緑内障 網膜疾患 屈折異常 ドライアイ 他

<診療内容>

視力検査 前眼部検査 眼底検査 眼圧検査

レーザー治療 白内障手術 硝子体注射

<診療実績>

白内障手術 0件 後発白内障手術 72件 網膜光凝固術 43件

硝子体注射 286件

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科長 吉田 拓矢

〈診療科の特徴〉

当科は平成 30 年 4 月から耳鼻咽喉科医 2 人での常勤体制となり、令和 3 年 7 月からは 3 人体制で診療をおこなっております。良性疾患については、耳・鼻・咽喉頭手術と幅広く行っております。また悪性疾患に関しては、岩手医科大学、東北大学と連携し診療にあたっており、緊急手術が必要となる頸部膿瘍などの対応もしております。

〈対象となる疾患〉

耳：難聴、耳鳴、耳性めまい、中耳炎など

鼻：アレルギー性鼻炎（後鼻神経切断術も行っています）、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害など
口腔、咽喉頭：扁桃炎、嗄声、味覚障害、口内炎など

頭頸部腫瘍：（口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、唾液腺、頸部の良性・悪性腫瘍）

その他：顔面神経麻痺、唾石症、嚥下障害、睡眠時無呼吸（手術加療も行っています）など

〈診療実績〉

内視鏡下鼻副鼻腔手術	62 件	唾石摘出術	2 件
鼻中隔矯正術	13 件	顎下腺摘出術	5 件
鼻甲介切除術	30 件	耳下腺腫瘍摘出術	8 件
鼻茸摘出術	1 件	リンパ節摘出術	7 件
涙嚢鼻腔吻合術	0 件	鼻腔粘膜焼灼術	38 件
鼻骨骨折整復固定術	3 件	鼻内異物摘出術	2 件
口蓋扁桃摘出手術	30 件	扁桃周囲膿瘍切開術	8 件
アデノイド切除術	4 件	咽頭異物摘出術	7 件
先天性耳瘻管摘出術	3 件	外耳道異物除去術	2 件
鼓膜切開術	11 件	硬性内視鏡下食道異物摘出術	0 件
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	20 件	深頸部膿瘍切開術	4 件
喉頭直達鏡下喉頭微細手術	0 件	気管切開術	2 件
喉頭ファイバー検査	865 件	穿刺吸引針細胞診	70 件
鼻腔ファイバー検査	1036 件	組織生検	99 件
嚥下内視鏡検査	31 件		

総合診療科

総合診療科長 加藤 博孝

2017年1月より総合診療科の外来を開設しました。

【磐井病院総合診療科の概要】

当院は、2016年4月から総合診療科の診療を開始しました。

2018年4月より新専門医制度がスタートし、「総合診療専門医」の専門研修が開始されました。当院は岩手県南部総合診療医育成プログラムの基幹施設となっています。

2022年4月1日から、岩手県の総合診療プログラムは岩手医科大学救急総合診療科が中心となり、岩手県全体で運営することになりました。当院は、岩手県統一プログラムの機関施設となります。

「総合診療」は、「病院総合診療」、「家庭医療」、「救急医療」に分けられます。共通点は「臓器・疾患にとらわれずに全人的な医療を提供する」ことです。日本全国でみると病院の総合診療科では、3つの比率がそれぞれ異なり、診療内容は施設ごとにまちまちです。

当院の総合診療科は「病院総合診療」の比重が大きいです。救急医療は、「救急科」が対応しており、「家庭医療」は行っておりません。

当院総合診療科は、複数の健康問題を持っている患者さん、原因不明の発熱や病態不明の患者さんについて院内の各診療科と協力して診療しています。

2020年度より臨床初期研修において1か月間の「一般外来研修」が義務化されました。初期研修医の一般外来研修の一部を総合診療科で担当しています。臨床問題や診断が特定されていない初診患者の外来診療を研修医が、病歴を聴取→身体所見から、臨床推論を行い、計画立案に至るまでの過程を実地で訓練します。研修医が、患者さんならびにご家族への接遇やメディカルスタッフと協働し、親しまれる医師を育てるよう行動しています。

原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者さんにつきましては、総合診療科医師に直接相談いただければ幸いです。

→総合診療科医師直通： 08032125193（平日 9:00-17:00、および緊急時）

磐井病院総合診療外来

予約方法	総合診療科医師直通： 08032125193（平日 9:00-16:00、および緊急時） 磐井病院予約センター： 0191-23-3453（平日 9:00-17:00）
外来	平日 9:00-16:00 予約制
対象疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者 ● 複数の健康問題をもった患者さんの診療 ● ニコチン依存症に対する禁煙外来 ● 外科疾患：甲状腺、乳腺、鼠径部ヘルニア、肛門疾患（内痔核の日帰り手術） ● 成人の予防接種 ● 外来がん薬物療法（緩和医療科と連携）
診療概要	院内の各診療科、医療相談室、地域連携室と連携 院外へのコンサルテーションもしながら患者さんの健康問題解決を図る
医師	加藤博孝（総合診療指導医、外科学専門医、感染コントロールドクター、岩手医科大学臨床教授）
入院対応	入院が必要な場合は、院内の診療科あるいは院外に依頼する

研修医外来

- 半日で、1 から 2 名の患者さんを指導医とともに診察→指導医とともに mini-CEX で評価
- EPOC-2 での評価
- 主治医意見書記載
- 苦痛のスクリーニング
- 新患は、Ubie 問診システムを使用
- 救急外来で診察した患者さんの再診
- 感染症症例検討会での講師
- AST 症例検討会の症例まとめ

総合診療科週間スケジュール (2022/4/1-2023/3/31)

	月	火	水	木	金	土	日
7:45				感染症症例検討会			
8:30-9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング		
9:00-12:30	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
12:30-13:30	休息	休息	休息	休息	休息		
13:30-15:00	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
15:00-16:00	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー		
16:15	AST 症例検討会						
17:15							

主な診療実績 (令和年度)

	令和 3 年度	令和 4 年度
禁煙外来初診患者	20 人	14 人
新患数	31 人	35 人

脳神経内科

第1神経内科長 川守田 厚

<特徴>

岩手県南、宮城県北の救急を受け入れている総合病院で脳神経内科の常勤医がいるのは数カ所であり、その中で神経疾患の救急対応をしているのは当院だけである。そのため当科の入院患者の大部分は脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者で占められている。特に脳梗塞に関してはtPA治療を行っている所以他院からの診療依頼は多い。自己免疫性神経疾患、脱髄性疾患などの専門的な疾患に関しては、免疫グロブリン大量療法、免疫吸着療法など特殊な治療を行っている。

外来はパーキンソン病、てんかんなど専門知識を必要とする慢性疾患の患者が多く、他院に診療依頼をすることが困難なことが多い。また、脳血管障害、パーキンソン病、神経免疫疾患、頭痛の専門医が週1回の割合で外来を担当している。また、脳血流SPECTやMRI稼働しているため認知症の診断、治療の依頼が多く、院内でも脳神経内科の医師が認知症サポートチームの一員として活動している。

<対象となる疾患>

代表的な疾患

脳血管障害（脳血栓症、脳塞栓症、一過性脳虚血発作など）

認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症など）

脳変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）

脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）

頭痛、てんかん

脳炎、髄膜炎

眼瞼痙攣（がんけんけいれん） 片側顔面痙攣（けいれん）

末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など）

筋疾患（筋炎、筋ジストロフィーなど） 脊髄疾患

< 診療内容 >

外来受診には基本的に紹介状が必要となります。CT, MRI 等の検査は検査日を予約して受けていただきます。筋電図、神経伝導速度の検査は毎週火曜日に行っています。外来診療は岩手医大神経内科教室、北上済生会病院等より応援を頂きながら当院の脳神経内科医師の一人が外来担当医として診療を行っております。急患の対応等で予約時間内に診察が困難な状況になることがありますのでご理解をお願いします。

< 診療実績 > (令和4年度)

患者	入院 (延べ)	5,097	人	検査 治療	t-PA	0	件
	退院	313	人		ボトックス	39	件
	外来	4,250	人		MRI	1,245	件
	新患	309	人		CT	866	件

救急科

救急科長 片山 貴晶

<診療科紹介>

救急科では中村紳副院長、および片山貴晶救急科長、前川慶之災害医療科長の3人の救急科専門医を指導医として、後期研修医、二年次研修医及び一年次研修医とともに、主に救急外来を受診された患者様の診療および入院管理を担当しています。日中、救急外来での患者対応はほとんどすべて当科で担っております。入院患者には急性薬物中毒や外傷の患者様も多く、少ない人数で日々多忙を極めております。当地域の医療事情を鑑みて、薬物中毒や外傷、熱傷など専門的な診断・治療が必要な急性期疾患はもちろんのこと、不明熱や専門的治療が必要のない肺炎や尿路感染症などの急性疾患や心不全などの慢性疾患、当院に常勤医師不在の血液、腎・内分泌疾患など、また社会的に入院が必要な高齢の患者様の看取りの含めた入院管理など幅広く担当しております。

<診療実績> (令和4年度)

入院患者数：644人
入院患者死亡数：60人
救急車・ドクターヘリによる患者収容件数：3,005件
救急外来での心肺停止症例の治療実績：103人

<学会認定施設>

日本DMAT指定施設

歯科口腔外科

歯科口腔外科長 中山 温史

<特徴>

当科は岩手県南地域の中核病院として、大学病院や関連病院、また地域の歯科医師会等と連携しながら各種疾患に対応しております。

外来診療や全身麻酔下での手術のほか、歯科治療恐怖症の患者さんに対しましては、麻酔科と連携しながら静脈内鎮静法を積極的に取り入れ、治療に対する不安軽減に努めております。また有病者（他科で治療を受けている方）に対しましては専門知識や治療経験を活かして対応しておりますので、安心して治療を受けていただくことができます。

また、周術期口腔機能管理として、がん等に係わる手術または放射線治療、化学療法や緩和ケアを実施する患者さんに対しての口腔ケア等も行っております。さらに、栄養サポートチーム(NST)、呼吸ケアサポートチーム(RST)の一員として、他職種と連携を取りながら入院患者さんの口腔健康管理を支援しています。

☆当科は日本口腔外科学会より認定関連研修施設の施設認定を受けております。

<対象となる疾患>

埋伏歯等、顎顔面損傷、炎症性疾患、アレルギー疾患、感染症、口腔粘膜疾患、のう胞および類似疾患、腫瘍および類似疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経系疾患、歯科治療恐怖症など
歯科口腔外科診療実績（令和4年度）

外来患者数	3,985名
入院患者数	95名
全身麻酔症例	95件
静脈内鎮静症例	52件

麻酔科

中央手術科長 須田 志優
 麻酔科長 叶城 倫子
 麻酔科医長 千田 康之
 (歯科医師) 佐藤 光

<診療科紹介>

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

令和4年1月から12月までの1年間に、自施設の研修医5名と東北大学病院の研修医1名による麻酔研修、奥羽大学歯学部から歯科医師1名の医科麻酔科研修を受け入れました。今後も岩手県立中央病院・岩手医大・東北大学の基幹研修施設・関連研修施設として専攻医・研修医・歯科麻酔科医の育成等に励みたいと考えております。

上記と併せて、救急救命士等の研修を行い、令和4年は一関市消防本部に所属する救急救命士等に対して再教育実習(11名)及びAWS挿管実習(4名)、久慈広域消防本部に所属する救急救命士のAWS挿管実習(1名)を受け入れました。

<診療実績> (2022年1月～2022年12月)

麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	391例
全身麻酔(TIVA)	951例
全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝麻	144例
全身麻酔(TIVA)+硬・脊・伝麻	155例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	43例
硬膜外麻酔	3例
脊髄くも膜下麻酔	39例
伝達麻酔	0例
その他	57例
合計	1783例

<学会認定施設>

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
 日本歯科麻酔学会認定研修機関